

(様式第 10)

番 号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学  
理事長 明石 勝也 (印)

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏 名	学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

学校法人 聖マリアンナ医科大学病院
-------------------

3 所在の場所

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号 電話( 044 )977-8111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 内科 2 呼吸器内科 3 消化器・肝臓内科 4 循環器内科 5 腎臓内科 6 神経内科 7 血液内科 8 代謝・内分泌内科 9 リウマチ内科 10 腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺・内分泌外科 4 心臓血管外科 5 小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 16救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科 2 病理診断科 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52 床	床	床	床	1,156床	1,208床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年9月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	581人	20.3人	601.3人	看 護 補 助 者	135人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	人	人	人	理 学 療 法 士	22人	臨床検査技師	93人
薬 剤 師	72人	人	72人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	人
保 健 師	88人	1.9人	89.9人	視 能 訓 練 士	9人	そ の 他	13人
助 産 師	38人	0.2人	38.2人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	896人	25.9人	921.9人	臨 床 工 学 士	29人	医療社会事業従事者	12人
准 看 護 師	4人	人	4人	栄 養 士	2人	その他の技術員	38人
歯科衛生士	人	人	人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	289人
管理栄養士	16人	人	16人	診 療 放 射 線 技 師	66人	そ の 他 の 職 員	1人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年9月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	34人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	48人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	8人
精 神 科 専 門 医	4人	放 射 線 科 専 門 医	22人
小 児 科 専 門 医	21人	脳 神 経 外 科 専 門 医	9人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	17人
泌 尿 器 科 専 門 医	4人	麻 酔 科 専 門 医	8人
産 婦 人 科 専 門 医	21人	救 急 科 専 門 医	10人
		合 計	222人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	818.6人	人	818.6人
1日当たり平均外来患者数	2,359.6人	人	2,359.6人
1日当たり平均調剤数			1,295 剤
必要医師数			221人
必要歯科医師数			0人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			489人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m <sup>2</sup> 下記参照	鉄筋コンクリート	病床数	35 床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 98.88 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 3 台		病床数	10 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.5 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 薬剤部 (TDM室 薬物血中濃度モニタリング室)					
化学検査室	360 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置、純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置			
細菌検査室	153 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心器、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等			
病理検査室	385.96 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	134.81 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、高圧滅菌装置、真空パック装置			
研究室	1874.54 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置			
講義室	1547.35 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	5 室	収容定員	1,164 人
図書室	1016.96 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	140,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

集中治療室 CCU6床 107.8m<sup>2</sup> (1床当たり17.9m<sup>2</sup>)、ICU7床 145.6m<sup>2</sup> (1床当たり20.8m<sup>2</sup>)、  
SCU4床 86.9m<sup>2</sup> (1床当たり21.7m<sup>2</sup>)、MFICU6床 106.8m<sup>2</sup> (1床当たり17.8m<sup>2</sup>)、  
NICU12床 230.2 m<sup>2</sup> (1床当たり19.1 m<sup>2</sup>)

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	73.3%	逆紹介率	67.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,001	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	19,131	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,892	人
	D: 初診の患者の数	28,492	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	346人	・膿疱性乾癬	16人
・多発性硬化症	114人	・広範脊柱管狭窄症	2020人
・重症筋無力症	190人	・原発性胆汁性肝硬変	377人
・全身性エリテマトーデス	1306人	・重症急性膵炎	11人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	109人
・再生不良性貧血	130人	・混合性結合組織病	215人
・サルコイドーシス	246人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	26人	・特発性間質性肺炎	50人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	810人	・網膜色素変性症	63人
・特発性血小板減少性紫斑病	194人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	312人	・肺動脈性肺高血圧症	196人
・潰瘍性大腸炎	500人	・神経線維腫症	44人
・大動脈炎症候群	59人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	361人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	127人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	16人
・脊髄小脳変性症	118人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	157人	・副腎白質ジストロフィー	4人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	107人
・悪性関節リウマチ	160人	・脊髄性筋委縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	1688人	・球脊髄性筋委縮症	5人
・アミロイドーシス	96人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	42人
・後縦靭帯骨化症	101人	・肥大型心筋症	238人
・ハンチントン病	4人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	31人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	108人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	305人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	35人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	32人	・黄色靭帯骨化症	34人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	861人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。





# 施設基準届出状況

保険医療機関  
特定機能病院 がん診療連携拠点病院 肝疾患診療連携拠点病院 入院時食事療養（Ⅰ）

## < 基本診療料 >

- 特定機能病院入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病院入院基本料（精神10対1）
- 臨床研修病院入院診療加算 基幹型
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加入算
- 妊産婦緊急搬送入院加算
- 診療録管理体制加算1
- 急性期看護補助体制加算
- 看護職員夜間配置加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- がん診療連携拠点病院加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染防止対策加算 1
- 患者サポート充実体制加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 退院調整加算
- 救急搬送患者地域連携紹介加算
- 総合評価加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 2
- 病棟薬剤業務実施加算
- データ提出加算 2
- 救命救急入院料 1
- 救命救急入院料 4
- 特定集中治療室管理料 3
- 総合周産期特定集中治療室管理料
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1

## < 特掲診療料 >

- 心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）
- 高度難聴指導管理料
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料 1
- がん患者指導管理料 2
- がん患者指導管理料 3
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料 1（臓器移植後の場合）
- 移植後患者指導管理料 2（造血幹細胞移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 院内トリアージ実施料
- 外来リハビリテーション診療料
- 外来放射線照射診療料
- ニコチン依存症管理料
- 地域連携診療計画管理料
- がん治療連携計画策定料1
- がん治療連携計画策定料2
- がん治療連携管理料
- 認知症専門診断管理料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 在宅血液透析指導管理料
- 持続血糖測定器加算
- 造血器腫瘍遺伝子検査
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（Ⅰ）
- 検体検査管理加算（Ⅲ）
- 検体検査管理加算（Ⅳ）
- 遺伝カウンセリング加算
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 植込型心電図検査
- 時間内歩行試験
- 胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 皮下連続式グルコース測定
- 神経学的検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 2
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 外傷全身CT加算
- 大腸CT撮影加算
- 心臓MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- がん患者リハビリテーション料
- 認知症患者リハビリテーション
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- 医療保護入院等診療料
- エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
- エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
- 透析液水質確保加算 2
- 一酸化窒素吸入療法
- 皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
- 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- 骨移植術（軟骨移植を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- 腫瘍骨椎骨全摘術
- 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 網膜再建術
- 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 1
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 2
- グル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- 経皮的冠動脈形成術
- 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 経皮的冠動脈ステント留置術
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術（レーザーシースを用いるもの）
- 両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 補助人工心臓
- 経皮的大動脈遮断術
- ダメージコントロール手術
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下小切開腎摘出術
- 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
- 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
- 輸血管理料 Ⅰ
- 輸血適正使用加算
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 麻酔管理料（Ⅰ）
- 麻酔管理料（Ⅱ）
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 1回線量増加加算
- 強度変調放射線治療（IMRT）
- 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
- 体外照射呼吸器性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸器移動対策加算
- 病理診断管理加算 2



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨格筋損傷の修復に対するアイシングの影響と微弱電流併用効果に関する研究	藤谷 博人	スポーツ医学	1,400,000	補委 (独) 日本学術振興会
網膜症極前期におけるオートファジー関連機構を介した血管細胞死メカニズムの解明	高木 均	眼科学	1,800,000	補委 (独) 日本学術振興会
視神経軸索障害におけるγセクレターゼとオートファジーの分子制御機構の解明	北岡 康史	眼科学	1,200,000	補委 (独) 日本学術振興会
二次的網膜神経節細胞変性における新規分子基盤の確立	宗正 泰成	眼科学	1,500,000	補委 (独) 日本学術振興会
関節リウマチでの心臓MRIによる無症候性心病変の検出と意義: 生物学的製剤の効	小林 泰之	放射線医学	1,200,000	補委 (独) 日本学術振興会
大規模ゲノム解析による染色体構造異常解析	右田 王介	小児科学	1,100,000	補委 (独) 日本学術振興会
小児1型糖尿病患者のカーボカウントを支援する携帯情報端末アプリの開発と効果の検討	曾根田 瞬	小児科学	1,100,000	補委 (独) 日本学術振興会
肥満者の疾病予防と健康増進のための体脂肪特異的減量を実現する食事理論の確立	田中 逸	内科学(代謝・内分泌内科)	1,500,000	補委 (独) 日本学術振興会
心雑音漸増追加方式を組み込んだ心臓聴診教育プログラムの開発	信岡 祐彦	臨床検査医学	900,000	補委 (独) 日本学術振興会
親子の骨強化啓発活動の研究(骨粗鬆症の一次予防への運動・栄養指導方法の確立)	清水 弘之	整形外科学	300,000	補委 (独) 日本学術振興会
骨格筋線維タイプ別の筋力回復に関する研究	小林 哲士	整形外科学	500,000	補委 (独) 日本学術振興会
ヘパチトミクスで同定した血管炎の新たなバイオマーカーの臨床的意義の基盤解析	尾崎 承一	内科学(リ・膠・ア内科)	900,000	補委 (独) 日本学術振興会
ベーチェット病の自己抗体の解析: 好中球遊走能にかかわるコフィリンに対する抗体	大岡 正道	内科学(リ・膠・ア内科)	100,000	補委 (独) 日本学術振興会
移植腎の予後(線維化)を早期に決定づける因子の解明と診断への応用	力石 辰也	腎泌尿器外科学	1,300,000	補委 (独) 日本学術振興会
尿中マイクロRNAを指標とした非侵襲的な膀胱腫瘍の新規診断法および治療の試み	佐々木 秀郎	腎泌尿器外科学	1,100,000	補委 (独) 日本学術振興会
めまいリハビリテーションへの応用を目的とした耳石-眼反射の可塑性の検討	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学	100,000	補委 (独) 日本学術振興会
難治性中耳炎に対する細胞シート移植を用いた臨床研究	谷口 雄一郎	耳鼻咽喉科学	1,100,000	補委 (独) 日本学術振興会
7テスラMRIによるマウス内リンパ水腫の観察および分子生物学的解析	中村 学	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補委 (独) 日本学術振興会
慢性疾患に有用なホープレスネス尺度の開発と応用	柴垣 有吾	内科学(腎臓・高血圧内科)	700,000	補委 (独) 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
急性および慢性腎臓病に対する新規腎疾患治療法の確立	松井 勝臣	内科学(腎臓・高血圧内科)	800,000	補委 (独)日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来皮質運動神経シートの作成と移植応用	鈴木 登	免疫学・病害動物学	1,800,000	補委 (独)日本学術振興会
肺癌の早期発見システムとしてのイオン移動度分光測定式探知器による呼気分析	宮澤 輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)	1,400,000	補委 (独)日本学術振興会
内視鏡的肺容量減量術における、肺内気流分布評価の有用性の検討	峯下 昌道	内科学(呼吸器・感染症内科)	300,000	補委 (独)日本学術振興会
変形性関節症における核酸修復酵素の活性・発現制御機構と軟骨変性機序との関連解析	遊道 和雄	難病治療研究センター	1,500,000	補委 (独)日本学術振興会
HTLV-1関連脊髄症において新規に同定した病原性ヘルパーCD4+T細胞の解析	山野 嘉久	難病治療研究センター	1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
K6およびK63ユビキチン鎖によるDNA修復制御機構	太田 智彦	応用分子腫瘍学	15,000,000	補委 (独)日本学術振興会
乳癌治療に向けた分子基盤としてのBRCA1の機能解析	太田 智彦	応用分子腫瘍学	4,800,000	補委 (独)日本学術振興会
BRCA1欠損とエストロゲン作用に起因する卵巣がん発症メカニズムの解明	太田 智彦	応用分子腫瘍学	1,400,000	補委 (独)日本学術振興会
クロザピンの治療抵抗性統合失調症のP糖タンパク質を介した作用機序解明の検討	長田 賢一	神経精神科学	1,100,000	補委 (独)日本学術振興会
早期精神病に対するPC-DHAの発症予防と認知機能改善効果の研究	宮本 聖也	神経精神科学	1,400,000	補委 (独)日本学術振興会
N-acetylcysteineの精神病発症予防効果の検討	三宅 誕実	神経精神科学	1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
Aktが賦活する転写因子の同定と転写因子過剰発現マウスによる抗うつ効果の解析	中野 三穂	神経精神科学	1,700,000	補委 (独)日本学術振興会
プロテオミクスを用いた抗癌剤Naive患者における肝障害メカニズムの解析	中野 浩	外科学(消化器・一般外科)	1,200,000	補委 (独)日本学術振興会
高齢者のメタボリックシンドロームは改善するか? -健診での調査-	鳥飼 圭人	内科学(総合診療内科)	400,000	補委 (独)日本学術振興会
肝がん治療効果予測分子診断システムの構築	奥瀬 千晃	内科学(消化器・肝臓内科)	1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
HPV組込とエピゲノムの次世代統合解析による食道癌の超早期診断・治療・予防一体化	山本 博幸	内科学(消化器・肝臓内科)	2,000,000	補委 (独)日本学術振興会
トランスポーター選択性に基づく肝腎二系統排泄型新規X線造影剤の開発	松本 伸行	内科学(消化器・肝臓内科)	1,200,000	補委 (独)日本学術振興会
DSB-HR食道がん放射線化学療法感受性予測診断システム構築	前畑 忠輝	内科学(消化器・肝臓内科)	1,800,000	補委 (独)日本学術振興会
ストレス心筋症患者における脳心連関	明石 嘉浩	内科学(循環器内科)	1,400,000	補委 (独)日本学術振興会
奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症の負荷時血行動態及び予後調査(多施設合同研究)	出雲 昌樹	内科学(循環器内科)	800,000	補委 (独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
羊胎仔尿路閉塞後の腎・膀胱両機能温存型膀胱一羊水腔シャントチューブの開発	北川 博昭	外科学(小児外科)	1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
羊を用いた胎児尿路閉塞モデルの萎縮膀胱に胎児期ボツリヌス注射を用いた効果	長江 秀樹	外科学(小児外科)	1,100,000	補委 (独)日本学術振興会
多次元医用画像と深部情報可視化映像によるリアルタイム手術支援システムの開発	佐治 久	外科学(呼吸器外科)	1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
HPV組込み解析とエピゲノム解析による子宮頸がん発症機構の解明	鈴木 直	産婦人科学(婦人科)	1,900,000	補委 (独)日本学術振興会
卵子特異的リンカーヒストンによるクロマチンリモデリングと遺伝子初期化誘導	田中 守	産婦人科学(産科)	1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
ヒト卵子再生と卵胞完全体外培養による新たな不妊治療法の開発	河村 和弘	産婦人科学(産科)	4,000,000	補委 (独)日本学術振興会
休眠原始卵胞の人為的活性化技術を応用した新たな不妊治療法の開発	河村 和弘	産婦人科学(産科)	5,200,000	補委 (独)日本学術振興会
高感度糖鎖解析システムを用いた新たな子宮頸癌診断・治療バイオマーカーの開発	戸澤 晃子	産婦人科学(婦人科)	1,800,000	補委 (独)日本学術振興会
ヒト培養細胞のカルバペネム系抗菌薬失活効果の解析	竹村 弘	微生物学	700,000	補委 (独)日本学術振興会
白斑・悪性黒色腫治療のためのヒトメラノサイト分化とiPS細胞研究	川上 民裕	皮膚科学	1,700,000	補委 (独)日本学術振興会
HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発	山野 嘉久	難病治療研究センター	256,422,000	補委 厚生労働省
HAMの革新的な医薬品等の開発促進に関する研究	山野 嘉久	難病治療研究センター	33,333,000	補委 厚生労働省
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	三村 秀文	放射線医学	2,437,818	補委 厚生労働省
再発性多発軟骨炎の診断と治療体系の確立	鈴木 登	免疫学・病害動物学	2,308,000	補委 厚生労働省
若年乳がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援	鈴木 直	産婦人科学(婦人科)	6,930,000	補委 厚生労働省
再発または難治性小児ALK陽性未分化大細胞型リンパ腫に対するクリゾチニブの第I/II相医師主導治験の実施計画(プロトコール)作成研究	森 鉄也	小児科学	3,800,000	補委 厚生労働省
高度腹膜転移胃癌に対する標準化学療法法の確立に関する研究	中島 貴子	臨床腫瘍学	25,000,000	補委 厚生労働省

計 57

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Nagafuchi H	リウマチ膠原病アレルギー内科	Long-term safety and efficacy of rituximab in 7 Japanese patients with ANCA-associated vasculitis.	Mod Rheumatol. 15巻P1-6 2014年12月
2	Kojima K	眼科学	Axonal protection by modulation of p62 expression in TNF-induced optic nerve degeneration	Neuroscience Letters 581巻 P37-41 2014年8月
3	Seido Takae	産婦人科学	The role of menstrual cycle phase and AMH levels in breast cancer patients whose ovarian tissue was cryopreserved for oncofertility treatment	Journal of Assisted reproduction and Genetics 2014 Epub ahead of print 2014年
4	Migita O	小児科学	Compilation of copy number variants identified in phenotypically normal and parous Japanese women.	Journal of Human Genetics 59巻6号 P326-331 2014年5月
5	Tanaka Kunihide	小児外科	Can a pressure-limited V-A shunt for obstructive uropathy really protect the kidney?	Journal of Pediatric Surgery 49巻12号 P1831-1834 2014年12月
6	Shinjiro Kobayashi	消化器・一般外科	Anatomic Variations of Hepatic Artery and New Clinical Classification Based on Abdominal Angiographic Images of 1200 Cases	Hepato-gastroenterology 61号 P2337-2340 2014年11月
7	Jin Shimada	消化器・一般外科	Development of a System to Measure Swallowing Motion by Surface Electromyography	Journal of St. Marianna University 5巻2号P107-115 2014年12月
8	Shinjiro Kobayashi	消化器・一般外科	Perioperative Care with Fast-Track Management in Patients Undergoing Pancreaticoduodenectomy	World journal of surgery 10.1007/s00268-014-2548-5 P1-8 2014年4月
9	Matsumoto Nobuyuki	消化器・肝臓内科	Additional Malignant Transformation of a Hepatocellular Carcinoma Cell Line by Heat Treatment Can Occur Through Epithelial-Mesenchymal Transition without Acquisition of Heat Resistance	Journal of St. Marianna University 5巻2号 P37-46 2014年12月
10	Suetani Keigo	消化器・肝臓内科	Thrombomodulin in the management of acute cholangitis-induced disseminated intravascular coagulation	World Journal of Gastroenterology 21巻2号 P533-540 2015年1月
11	Nakahara Kazunari	消化器・肝臓内科	Need for pancreatic stenting after sphincterotomy in patients with difficult cannulation	World Journal of Gastroenterology 20巻26号 P8617-8623 2014年6月
12	Ninomiya Y	神経精神科学	Long-term efficacy and safety of blonanserin in patients with first-episode schizophrenia: A one-year open-label trial	Psychiatry and Clinical Neurosciences 68巻12号P841-849 2014年12月
13	Suzuki I	神経精神科学	Serum peptides as candidate bio-markers for dementia with Lewy bodies.	International journal of geriatric psychiatry. doi: 10.1002/gps.4274 2015年3月

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
14	Kudo Hiroya	腎泌尿器外科学	Induction of macrophage-like immunosuppressive cells from mouse ES cells that contribute to prolong allogeneic graft survival.	PloS One 9巻 10号 e111826 2014年10月
15	Sasaki Hideo	腎泌尿器外科学	Urinary tract reconstruction using uretero-ureteral end-to-side anastomosis in kidney transplant recipients.	Transplantation proceedings 47巻2号 P359-362 2015年3月
16	Kitajima Kazuki	腎泌尿器外科学	Asymptomatic post-transplant lymphoproliferative disorder diagnosed at one-year protocol renal allograft biopsy.	Nephrology (Carlton, Vic.) 19巻3号P42-44 2014年5月
17	Niki H	整形外科	Accessory talar facet impingement in pathologic conditions of the peritalar region in adults	Foot and Ankle International 35巻 P1006-1014 2014年10月
18	Yoshioka T	リウマチ膠原病アレルギー内科	Protein profiles of peripheral blood mononuclear cells as a candidate biomarker for Behcet's disease.	Clinical and Experimental Rheumatology 32巻 4suppl84 S9-S19 2014年7月
19	Koizumi H	整形外科	Effects of tofacitinib on nucleic acid metabolism in human articular chondrocytes.	Modern rheumatology 11巻 P1-24 2014年12月
20	Nagai Y	代謝・内分泌内科	Differing effects of liraglutide on gastric emptying in Japanese patients with type 2 diabetes	Diabetes, obesity & metabolism 16巻6号 P573-576 2014年6月
21	Yoshida Yasuyuki	脳神経外科学	NT113, a pan-ERBB inhibitor with high brain penetrance, inhibits the growth of glioblastoma xenografts with EGFR amplification.	Molecular cancer therapeutics 13巻12号 P2919-2929 2014年12月
22	Kawakami T	皮膚科学	Significance of two skin biopsy performances with consecutive deeper sections in the differential diagnosis between cutaneous polyarteritis nodosa and livedo vasculopathy.	Acta dermatovenereologica 94号 P84-85 2014年
23	Kawakami T	皮膚科学	Rituximab therapy for digital gangrene with microscopic polyangiitis refractory to corticosteroids and cyclophosphamide.	The Journal of Dermatology 41巻2号 P191-192 2014年
24	Ichiro Maeda	病理学	Positive predictive value for malignancy of pure flat epithelial atypia diagnosis by percutaneous needle biopsy of the breast:management of FEA in ultrasonography	Breast Cancer P1-7 2014年4月
25	Matsuoka S	放射線医学	Usefulness of coronal reconstruction CT images for quantitative evaluation of the cross-sectional area of small pulmonary vessels.	Academic Radiology 21巻11号 P1411-1415 2014年11月
26	Matsuoka S	放射線医学	Relationship between quantitative CT of pulmonary small vessels and pulmonary perfusion.	American Journal of Roentgenology 202巻4号 P719-724 2014年4月
27	Murakami K	放射線医学	Pelvic arteriovenous malformation treated by transarterial glue embolisation combining proximal balloon occlusion and devascularisation of multiple feeding arteries.	BMJ Case Reports 2014巻 jun06 1号 2014年6月
28	Boku N	臨床腫瘍学	Phase I study of sunitinib plus S-1 and cisplatin in Japanese patients with advanced or metastatic gastric cancer.	Invest New Drugs. 32巻1号 P261-270 2014年4月

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
29	Fujiya Hiroto	スポーツ医学	Effect of Sports Glasses Lens Color on Static and Kinetic Visual Acuity	Japanese Journal of Clinical Physiology 44巻3号 P113-117 2014年8月
30	Yuko Nakagawa	産婦人科学	NF-κB signaling mediates acquired resistance after PARP inhibition	Oncotarget 6巻6号 P3825-3839 2015年2月
31	Inoue Y	血液・腫瘍内科	Pharmacokinetics of cyclosporine a conversion from twice-daily infusion to oral administration in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	American journal of therapeutics 21巻5号 P377-384 2014年9月
32	Takemura H	血液・腫瘍内科	The First reported case of central venous catheter-related fungemia caused by <i>Cryptococcus liquefaciens</i> .	Journal of Infection and Chemotherapy doi:10.1016-j.jiac.2014.11.0007 2015年
33	Kato Masayuki	血液・腫瘍内科	Spontaneous remission in a patient with follicular lymphoma carrying T cell-rich neoplastic follicles and a new complex variant translocation of t(14;18);t(5;14;18)(p15;q32;q21.3)	Leukemia & lymphoma 2巻 P1-10 2014年12月
34	Inoue Teppei	呼吸器・感染症内科	Volatile Organic Compounds Arising from Tracheobronchial Stent-related Biofilm Formation Detected in Patients' Breath by Ion Mobility Spectrometry	Journal of St. Marianna University 5巻2号 P69-75 2014年12月
35	Handa Hiroshi	呼吸器・感染症内科	Exhaled breath analysis for lung cancer detection using ion mobility spectrometry.	PLOS ONE 9巻 12号 e114555 2014年12月
36	Mineshita Masamichi	呼吸器・感染症内科	Left and right lung asynchrony as a physiological indicator for unilateral bronchial obstruction in interventional bronchoscopy.	PLoS One 9巻 8号 e105327 2014年8月
37	Morikawa Kei	呼吸器・感染症内科	Histogram-based quantitative evaluation of EBUS image of peripheral pulmonary lesion.	Respiration 89巻2号 P148-154 2015年1月
38	Mineshita Masamichi	呼吸器・感染症内科	The correlation between lung sound distribution and pulmonary function in COPD patients.	PLoS One 9巻9号 e107506 2014年9月
39	Saji Hisashi	呼吸器外科	Correlation between whole tumor size and solid component size on high-resolution computed tomography in the prediction of the degree of pathologic malignancy and the prognostic outcome in primary lung adenocarcinoma.	Acta radiologica (Stockholm, Sweden : 1987) pii: 0284185114554823 2014年10月
40	Nakamura Haruhiko	呼吸器外科	Impact of intraoperative blood loss on long-term survival after lung cancer resection	Ann Thorac Cardiovasc Surg 21巻1号 P18-23 2015年1月
41	Suzuki N	産婦人科学	Successful fertility preservation following ovarian tissue vitrification in patients with primary ovarian insufficiency	Human Reproduction 30巻3号 P608-615 2015年3月
42	Seido Takae	産婦人科学	Analysis of late-onset ovarian insufficiency after ovarian surgery: retrospective study with 75 Patients of post-surgical ovarian Insufficiency	PLoS One 2014 9巻5号 e98174 2014年5月
43	Suzuki Norio	循環器内科	Assessment of transthyretin combined with mini nutritional assessment on admission provides useful prognostic information in patients with acute decompensated heart failure.	International heart journal 56巻2号 P226-233 2015年3月

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
44	Kida Keisuke	循環器内科	Efficacy of tolvaptan added to furosemide in heart failure patients with advanced kidney dysfunction: a pharmacokinetic and pharmacodynamic study.	Clinical pharmacokinetics 54巻3号 P273-284 2015年3月
45	Yoneyama Kihei	循環器内科	Severity of myocardial fatty acid dysmetabolism induced by coronary spasm does not differ with Thrombolysis in Myocardial Infarction (TIMI) grade during intracoronary acetylcholine provocation tests.	International heart journal 55巻5号 P416-421 2014年9月
46	Kongoji Ken	循環器内科	Early defects identified by computed tomography angiography are associated with left ventricular dysfunction and exercise intolerance following acute myocardial infarction.	Japanese journal of radiology 32巻10号 P585-591 2014年10月
47	Takagi Yasushi	循環器内科	Implication of Cyclic AMP/cAMP-responsive Element Binding Protein Pathway Contributes Both Surfactant Protein B Production and Lung Cell Proliferation in the Preterm Infant Lung with Antenatal Glucocorticoid Administration	Journal of St. Marianna University 5巻2号 P95-105 2014年12月
48	Suzuki Kengo	循環器内科	Influence of pulmonary vascular reserve on exercise-induced pulmonary hypertension in patients with systemic sclerosis.	Echocardiography (Mount Kisco, N.Y.)32巻3号 P428-435 2015年3月
49	Kinoshita A	小児科学	Acute myeloid leukaemia with myelodysplastic features in children: a report of Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group.	British journal of haematology 167巻1号 P80-86 2014年10月
50	Tetsuya Mori	小児科学	Studies on Efficacy of Lidocaine for Status Epilepticus in Neonates	Journal of St. Marianna University 5巻1号 P13-16 2014年6月
51	Mori T	小児科学	Analysis of Japanese registration from the randomized international trial for childhood anaplastic large cell lymphoma (ALCL99-R1).	Rinsho Ketsueki (The Japanese journal of clinical hematology) 55巻5号 P526-533 2014年5月
52	Keino Dai	小児科学	Decision making by drug susceptibility test and MRD monitoring for acute undifferentiated leukemia	臨床血液 55巻9号 P1534 2014年9月
53	Morita Ryo	消化器・肝臓内科	Suppressive effects of EB virus infection on HER2 expression in gastric cancer cells	Integrative Molecular Medicine 1巻 P57-60 2014年
54	Yoshida Yoshihito	消化器・肝臓内科	Detection of DNA methylation of gastric juice-derived exosomes in gastric cancer	Integrative Molecular Medicine 1巻 P17-21 2014年
55	Mizukami H	神経内科	Progression of Intracranial Major Artery Stenosis is Associated with Baseline Carotid and Intracranial Atherosclerosis.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis Epub ahead 2014年9月
56	Tsuruoka A	神経内科	Effects of Edaravone, a Free Radical Scavenger, on Circulating Levels of MMP-9 and Hemorrhagic Transformation in Patients with Intravenous Thrombolysis Using Low-dose Alteplase.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 23巻10号 P2894-2899 2014年11月

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
57	Yamauchi J	腎臓・高血圧内科	Mogamulizumab, an Anti-CCR4 Antibody, Targets Human T-Lymphotropic Virus Type 1-infected CD8+ and CD4+ T Cells to Treat Associated Myelopathy.	Journal of infectious diseases 211巻2号 P238-248 2015年1月
58	Atsumi C	神経内科	Quality Assurance Monitoring of a Citywide Transportation Protocol Improves Clinical Indicators of Intravenous Tissue Plasminogen Activator Therapy: A Community-based, Longitudinal Study.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 24巻1号 P183-188 2015年1月
59	Uchida D	腎臓・高血圧内科	Underestimating chronic kidney disease by urine dipstick without serum creatinine as a screening tool in the general Japanese population.	Clinical and Experimental Nephrology P1-4 2014年8月
60	Kimura K	腎臓・高血圧内科	Preface:evidence-based clinical practice guidelines for CKD-an abridged English version(Japanese Society of Nephrology).	Clinical and Experimental Nephrology 18号 P339-340 2014年5月
61	Sueki S	腎臓・高血圧内科	Change in skin perfusion pressure after the creation of upper limb arteriovenous fistula for maintenance hemodialysis access	Hemodialysis International 30巻 P11-14 2014年
62	Shibagaki Y	腎臓・高血圧内科	Safety, efficacy and renal effect of febuxostat in patients with moderate-to-severe kidney dysfunction.	Hypertension Reserch 37号 P919-925 2014年10月
63	Sakurada T	腎臓・高血圧内科	Subcutaneous pathway diversion for peritoneal dialysis catheter salvage.	Advances in Peritoneal Dialysis 30巻 P11-14 2014年
64	Takaaki Hirano	整形外科	Anatomical characteristics of the accessory antero-lateral talar facet	Journal of Orthopedics Science 20巻 P124-128 2015年1月
65	Niki H	整形外科	Long-term outcome of joint-preserving surgery by combination metatarsal osteotomies for shortening for forefoot deformity in patients with rheumatoid arthritis.	Modern rheumatology P1-25 2015年1月
66	Yamauchi J	腎臓・高血圧内科	Anti-CCR4 antibody mogamulizumab targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy.	The Journal of infectious diseases 211巻2号 P238-248 2015年1月
67	Asano K	整形外科	Secretion of inflammatory factors from chondrocytes by layilin signaling.	Biochemical and Biophysical Reserch Communications. 452巻 P85-90 2014年9月
68	Suzuki N	免疫学・病害動物学	Neurological involvement of relapsing polychondritis in Japan: An epidemiological study.	Inflammation and Regeneration 34巻4号 P206-208 2014年9月
69	Suzuki E	難病治療研究センター	Stem cell therapy for erectile dysfunction.	World J Clin Urol 3巻3号 P272-282 2014年11月
70	Suzuki E	難病治療研究センター	Chronic kidney disease and erectile dysfunction	World J Nephrol 3巻4号 P220-229 2014年11月
71	Haruhiko Nakamura	呼吸器外科	Association of IASLC/ATS/ERS Histologic Subtypes of Lung Adenocarcinoma With Epidermal Growth Factor Receptor Mutations in 320 Resected Cases	Clinical lung cancer 10.1016/j.bbrc.2014.11.009 2014年10月

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
72	Haruhiko Nakamura	呼吸器外科	Close association of IASLC/ATS/ERS lung Adenocarcinoma subtypes with glucose-uptake in positron emission tomography	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands) 87巻1号 P28-33 2014年11月
73	Matsushita S	放射線医学	Pulmonary arterial enlargement in patients with acute exacerbation of interstitial pneumonia.	Clinical Imaging 38巻4号 P454-457 2014年7月
74	Saruya S	放射線医学	Quantitative CT measurements of small pulmonary vessels in chronic obstructive pulmonary disease: do they change on follow-up scans?	Clinical Physiology and Functional imaging 2014Nov13 P1-2 2014年11月
75	Matsuoka S	放射線医学	Morphological disease progression of combined pulmonary fibrosis and emphysema: comparison with emphysema alone and pulmonary fibrosis alone.	Journal of Computer Assisted Tomography 39巻2号 P153-159 2015年3月
76	Matsushita S	放射線医学	Quantitative computed tomography assessment of air trapping in relapsing polychondritis: correlations with spirometric values.	Journal of Computer Assisted Tomography 38巻6号 P968-971 2014年11月
77	Gomi H	放射線医学	Concurrent radiotherapy and intra-arterial infusion chemotherapy for locally advanced cervical cancer	Journal of St. Marianna University 5巻1号 P1-11 2014年6月
78	Osamu Nishikido	麻酔学	Efficacy of Nerve Blocks in Patients with Cancer Pain :A Retrospective Study	Journal of St. Marianna University5巻1号P17-21 2014年6月
79	Misawa H	整形外科	Pax7 Gene Induction Rapidly Regulates Myocyte Homeostasis in Human Induced Pluripotent Stem (iPS) Cells.	Journal of St. Marianna University 5巻1号P59-67 2014年6月
80	Taniyama TK	臨床腫瘍学	Clinicopathological features in young patients treated for small-cell lung cancer: significance of immunohistological and molecular analyses.	Clin Lung Cancer 15巻3号 P244-247 2014年5月
81	Taniyama TK	臨床腫瘍学	Can oncologists predict survival for patients with progressive disease after standard chemotherapies?	Curr Oncol 21巻2号 P84-90 2014年4月
82	Izawa N	臨床腫瘍学	Efficacy and feasibility of docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil induction chemotherapy for locally advanced head and neck squamous cell carcinoma classified as clinical nodal stage N2c, N3, or N2b with supraclavicular lymph node metastases.	Int J Clin Oncol. 2014年9月
83	Yoshiki Horie	臨床腫瘍学	Predictability of the anti-tumor efficacy of cetuximab plus irinotecan based on skin rash severity according to observation period in patients with metastatic colorectal cancer after fluorouracil, irinotecan, and oxaliplatin failure	Molecular and Clinical Oncology 2015年1月

計 83件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
(注) 1	当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。			
2	報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。			
3	「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。			
4	「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。			
5	平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。			

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	岩端秀之	産婦人科学	ヒト胚の第一卵割の時間と発育能との関連	日本受精着床学会雑誌 32巻1号 P36-39 2015年
2	福永哲	消化器・一般外科	特集 エネルギーデバイスのすべてー理論から実践までー Vessel sealing systemを用いた上部消化管手術ー進行性胃癌に対する外側アプローチ法リンパ節郭清ー	手術 69巻3号 P237-245 2015年3月
3	瀬上航平	消化器・一般外科	急性虫垂炎に対する腹腔鏡手術と開腹手術の比較検討	日本腹部救急医学会雑誌 34巻7号 P1259-1261 2014年11月
4	松原史明	代謝・内分泌内科	加齢に伴う腎機能低下を配慮した2型糖尿病治療におけるリナグリプチン(トラゼンタ®錠)の有用性	新薬と臨牀 63巻11号 P65-71 2015年3月
5	永井義夫	代謝・内分泌内科	聖マリアンナ医科大学病院糖尿病センター外来症例の入院理由についての調査ー Marianna Diabetes Study 2ー	聖マリアンナ医科大学雑誌 42巻4号 P205-211 2015年3月
6	永井義夫	代謝・内分泌内科	聖マリアンナ医科大学病院糖尿病センターにおける糖尿病の死因ーMarianna Diabetes Study 1ー	聖マリアンナ医科大学雑誌 42巻4号 P195-203 2015年3月

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 対象・申請研究の種類、倫理委員会の構成、審査について、臨床研究の事前登録について、利益相反について、補償制度について、重篤な有害事象について、各種報告について、講習会について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 <u>利益相反の定義、審議事項及び管理基準、開示方法等について</u>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容 臨床研究について・臨床試験の進め方、臨床試験の申請方法等、臨床研究の事前登録について	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

後期臨床研修プログラムには、大別して二つのコースがあり、ひとつは臨床の研修を主体とする「任期付助教」コースである。このコースでは5年間の期間に専門分野の臨床研修を行い、当該分野の専門医を取得できるようにプログラムされている。内科系9分野と外科系5分野では、細分化された専門分野の研修に進む前に、前半の2～3年の間に広く内科または外科の各分野をラウンドするプログラムとなっている。これにより内科系または外科系の広い範囲の疾患に触れた後に、各専門領域の研修に進む。5年間の任期付助教の終了後には専門医の申請が可能なだけの症例数が得られ、また、この期間は研究歴にも加算されるため、研究論文が学術誌に掲載されれば、医学博士の学位申請もできるようになっている。

もう一つのコースは、4年制の「大学院」コースである。このコースでは、指導教授のもとに4年間の学術研究を行い、その結果をもとに学位論文を作成して学術誌に掲載し、審査を受けることで医学博士を取得できる。一方で「診療助手」の職位のもと、病棟・外来での診療業務につくことも可能となる。これまで、臨床系の大学院生の大半は診療助手として、研究に専念する期間以外の時期に自分の目指す臨床分野の後期臨床研修を行っている。このコースでは医学博士と同時に専門医の取得が可能となる。

2 研修の実績

研修医の人数	100人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松田 隆秀	内科	部長	35年	
峯下 昌道	呼吸器内科	部長	29年	
明石 嘉浩	循環器内科	部長	19年	
伊東 文生	消化器・肝臓内科	部長	32年	
柴垣 有吾	腎臓内科	部長	22年	
田中 逸	代謝・内分泌内科	部長	29年	
長谷川 泰弘	神経内科	部長	35年	
三浦 偉久男	血液内科	部長	35年	
山田 秀裕	リウマチ科	部長	33年	
中島 貴子	腫瘍内科	副部長	17年	
宮本 聖也	神経精神科	副部長	25年	
山本 仁	小児科	部長	36年	
大坪 毅人	消化器外科	部長	29年	
宮入 剛	心臓血管外科	部長	32年	
中村 治彦	呼吸器外科	部長	34年	
北川 博昭	小児外科	部長	35年	
津川 浩一郎	乳腺・内分泌外科	部長	28年	
田中 雄一郎	脳神経外科	部長	34年	
仁木 久照	整形外科	部長	24年	
梶川 明義	形成外科	部長	31年	
相馬 良直	皮膚科	部長	32年	
力石 辰也	泌尿器科	部長	31年	

鈴木 直	産婦人科	部 長	24年
高木 均	眼科	部 長	28年
肥塚 泉	耳鼻咽喉科	部 長	34年
中島 康雄	放射線科	部 長	38年
館田 武志	麻酔科	部 長	37年
高木 正之	病理診断科	部 長	33年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 尾崎 承一
管理担当者氏名	総務部長 内海正昭、人事部長 赤坂兼啓、事務部長 細谷実知博 薬剤部長 横山美恵子、臨床検査部長 信岡祐彦、画像センター長 中島康雄 看護部長 本館教子、栄養副部長 柴田みち

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部、薬剤部、看護部、臨床検査部、病理診断科、内視鏡センター、画像センター、放射線治療センター、中央手術部、リハビリテーション部、輸血部、メディカルサポートセンター、診療記録管理室	診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1カルテ方式とし、入院は10年、外来5年の保存期間を規定としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	事務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部	
	高度の医療の研修の実績	事務部	
	閲覧実績	事務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項保各の号状及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 尾崎 承一	
閲覧担当者氏名	事務部長 細谷 実知博	
閲覧の求めに応じる場所	事務部 管理課	
閲覧の手続の概要		
◎診療録関係		
(院内) 附属病院における診療記録管理規定に基づき閲覧を行っている。		
(院外) 開示指針、並びに診療記録管理規定に基づき閲覧を行っている。		
◎管理運営関係		
管理課にて必要部門長の承認を得たのち会議室において、管理課担当者立会いのもと閲覧する。 (貸出し・コピーは厳禁) 閲覧後、閲覧者は、閲覧書類を確認し、返却する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理指針 平成12年4月 1日 策定 平成15年9月 29日 改正 平成16年3月 1日 改正 平成20年2月 1日 改正 平成21年1月 1日 改正 平成21年4月 1日 改正 平成22年4月 1日 改正 平成23年5月 1日 改正 平成24年4月 1日 改正 平成25年4月 1日 改正 平成26年4月 1日 改正</li> <li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 基本理念</li><li>2. 用語の定義</li><li>3. 委員会、組織</li><li>4. マニュアルの整備</li><li>5. 職員研修</li><li>6. 報告制度</li><li>7. インシデント・アクシデントの診療記録記載</li><li>8. 医療事故等発生時の対応</li><li>9. 患者からの相談への対応</li><li>10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有</li><li>11. 指針の改訂</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全対策委員会（平成26年度 年14回開催 内訳：定例11回、臨時3回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、感染制御部長を含む医師12名、看護師2名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、管理栄養士1名、事務職1名で構成</li> <li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全に係る事項の審議<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理に係る基本方針</li><li>・ インシデント・アクシデント・合併症の審議</li><li>・ リスクマネージャー会議、医療安全管理室からの報告事項に関すること</li><li>・ 医療安全職員研修に関すること</li><li>・ 医療安全対策の立案・実施に関すること</li><li>・ 医療安全推進に関すること</li></ul></li><li>2) 事故発生時の対応<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事故報告書（アクシデント・合併症・バリエーション報告書）の確認</li><li>・ 患者・家族、マスコミに対する病院としての対応策の検討</li></ul></li><li>3) 医療安全管理室への改善策等の提言</li></ol></li></ul></li> <li>2. リスクマネージャー会議（年12回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者を含むリスクマネージャー（医師39名、看護師35名、技術職17名、事務職12名）で構成</li> <li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 当院のインシデント・アクシデント事例の共有</li><li>2) 事故の発生要因分析と対策の検討とその評価</li><li>3) マニュアル、事故防止対策の実施状況および評価</li></ol></li></ul></li></ol>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成26年度 48回

1) 全職員対象

	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
第1回 当院に於ける患者急変対応システムについて	本講演: 6/17 ビデオ講演: 7/2、7/4、7/7、7/9、7/17 17:30~18:30と12:15~13:15 ビデオ貸出: 7/22~8/28	高松 由佳先生 (当院救急医学医師) 藤谷 茂樹先生 (当院救急医学臨床教授/東京ベイ・浦安市川医療センター一長)	全職員	547	960	358	532	2397人
第3回 笑って学べる医療コミュニケーション	本講演: 9/30 ビデオ講演: 10/14、10/20、10/22、10/24、10/29、10/30 17:30~18:30と12:15~13:15 ビデオ貸出: 10/31~12/3	中山 真先生 中原 誠先生 (Wマコト・放送作家)	全職員	537	866	351	530	2284人
第4回 医療安全の日	本講演: 11/25 ビデオ講演: 12/4、12/5、12/15、12/17、12/18 17:30~18:30と12:15~13:15 ビデオ貸出: 12/19~1/29	座長: 北川 博昭先生(当院 医療安全担当副院長) パネリスト: 柴垣 有吾先生 (当院 腎臓高血圧内科診療部長) 角田 由美子先生 (当時 腎臓病センター一師長) 増原 慶壮先生 (当院 薬剤部長)	全職員	471	761	337	346	1915人
第5回 重大医療事故発生時の想定訓練	本講演: 1/26 ビデオ講演: 2/6、2/10、2/13、2/16、2/18、2/19 17:30~18:30と12:15~13:15 ビデオ貸出: 2/17~3/9		全職員	340	613	288	274	1515人
KYT研修会 基礎編	5/29,7/24,9/5	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	全職員		38	8	3	49人
KYT研修会 実践編	9/29,10/21	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	全職員		19	4	4	27人

参加者合計 8187 人

職員一人当たり 3.37 回 / 年

## 2)対象者限定研修会

	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
医療安全研修	4/2	北川 博昭 副院長	新入職者	78	132	26	9	245人
平成 25 年度 6 点未満者対象研修	4/14～5/15		平成 25 年度 6 点未満者	21	6	1	3	31人
平成 25 年度 6 点未満者対象再研修	7/22～8/29		平成 25 年度 6 点未満者	2				2人
メディカルコーディネーター対象研修会	2014/6/10 13:00～14:00	竜 トシ子 (当院 医療安全管理者)	メディカルコーディネーター				28	28人
第 1 回 中途入職者研修	7/23	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	中途入職者	6	6	1	15	28人
第 2 回 中途入職者研修	11/20	清水弘之 (当院医療安全管理室長)	中途入職者	7	6	2	11	26人
第 3 回 中途入職者研修	2/12	清水弘之 (当院医療安全管理室長)	中途入職者	4	1	1	7	13人
e-ラーニング研修 血管外漏出時に影響度の高い薬剤と対処法	10/27～11/30			315	958	73		1346人
新 RM 対象研修	5/15,23 17 時～18 時	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	平成26年度 新リスクマネージャー	10	4		5	19人
新人看護師研修 安全な与薬	8/1,8,22,29 8:30～17:00	内川隆子 (安全管理室 師長) 井上浩子 (安全管理室 兼 事務師長)	新人看護師		135			135人
リスクマネージャー 対象研修 (チーム ステップス)	2/24 16～19 時 3/14 9～12 時	医療安全管理室	全リスクマネージャー	34	31	15	11	91人

参加者合計 1964 人

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者氏名・生年月日の2点確認実施の強化 患者誤認防止対策として患者氏名・生年月日の2点確認を実施しやすいように外来受付機の表示変更を行った。</li> <li>2) 合併症（影響度レベル1・2）の収集開始 医療の質向上につなげるため、これまで報告義務のなかった合併症（影響度レベル1・2）について、各診療科から3か月毎に発生数のみの報告を開始した。</li> <li>3) 院内（外）死亡報告書の収集開始 院内（外）で死亡した事例の中・長期的な把握。 医療の質評価の指標の一つとして活用する。 入院患者の死亡・夜間急、救命外来での死亡・退院（離院）後24時間以内の死亡について院内（外）死亡報告書の運用を開始した。</li> </ol> </li> </ul>	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p>(有) (1名) ・ 無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p>(有) (10名) ・ 無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<p>(有) ・ 無</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任10名（看護師2名、事務職員8名） 兼任8名（医師4名、看護師1名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、臨床工学技士1名）</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事故防止に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理指針の周知徹底</li> <li>・ インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理</li> <li>・ 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整</li> <li>・ 医療安全に関するマニュアル、手順の作成と更生</li> <li>・ 各部門の安全活動状況の把握（巡視）と指導</li> </ul> </li> <li>2) 事故調査に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価</li> <li>・ 事故調査委員会</li> </ul> </li> <li>3) 安全教育・啓蒙活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理に関する教育・研修の企画、運営</li> <li>・ 至急回報、e-ラーニング研修の配信</li> <li>・ 安全管理に関する会議の運営</li> </ul> </li> <li>4) 患者相談業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦情、相談の受付及び処理</li> <li>・ 苦情、相談等に係る調査及び報告</li> <li>・ 患者相談窓口の管理運営</li> <li>・ 苦情、相談事案の改善、活用</li> <li>・ メディエーターに関すること</li> </ul> </li> <li>5) 紛争処理業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療紛争の処理</li> <li>・ 医療の法務・訴訟</li> <li>・ 証拠保全等行政・司法機関からの照会等対応</li> <li>・ 医療事故、紛争の調査</li> <li>・ 医療ADRに関すること</li> </ul> </li> <li>6) 院内警備（保安）に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p>(有) ・ 無</p>

(様式第6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○・無
・ 指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は次の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
・ 活動の主な内容：夏期休暇を除く毎月感染委員会が開催されている。委員長は感染制御部部长で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理診断科、事務（施設、人事など）の職員で構成されている。活動の主な内容は次の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関すること、2. 院内感染・アウトブレイクの発生の要因及び対応に関すること、3. 滅菌及び消毒に関すること、4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関すること、5. 原因微生物別感染防止対策に関すること、6. 用途別、菌種別消毒薬に関すること、7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関すること、8. 感染症報告書に関すること、9. 労働災害上の感染措置及び取扱いに関すること、10. 院内感染防止のための検査に関すること、11. 環境微生物検査に関すること、12. 感染性廃棄物の適正処理に関すること、13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関すること、14. 病院長からの諮問事項に関すること、15. その他、感染防止に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 約25回
・ 研修の主な内容：全職員対象の研修会を年3回開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習（コース）、院内清掃業者を対象にした講習などを合計すると年間25回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。 1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 2. マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 3. 感染防止の推進に関する事項 ※平成26年度研修会（全職員対象）内容：「多摩病院のICTについて～隣の芝生は本当に青いのか!?～」(感染症に関する講演会)、「結核の病院内感染対策について」、「血液培養検査の重要性と検体採取法について」(感染担当者意見交換会)、「抗菌薬適正使用とAntimicrobial Stewardship」(感染症学術講演会) 【対象者別で行った講演会】「院内感染防止対策について」、「標準予防策の技術について」、「静脈注射における安全管理」、「血流感染・尿路感染予防策」、「ノロウイルス対策」等	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○・無) 1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。 2. 毎月診療科毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。 3. 診療科毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。 4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認） 2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。 3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施 4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知 5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	② (有)・無
③ 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年23回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<b>平成26年度</b> 医療安全職員研修会 <b>医療安全における薬剤取り扱いの注意点について</b> 新人看護職員技術研修 <b>安全な与薬（薬剤師の立場から）</b> 薬剤師による病棟研修会（<b>小児薬物治療について、新人看護師勉強会 血中濃度を測定する薬剤について、採用薬の説明など</b>）</li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 ( (有)・無 )</li><li>業務の主な内容： 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 年3回、医薬品安全管理に関する定期巡回を実施 その回毎に重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する 手順書に基づく業務の実施状況の確認</li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤部内に医薬品情報室を設置し、PMDA、製薬会社、DSU、海外文献、学会誌、大学図書館より最新情報を入手し、DIニュース、院内メール、病棟担当薬剤師等により情報提供を行っている。 また、院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知徹底している。</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： <b>2014年度</b><ul style="list-style-type: none"><li>画像監査システムの導入</li><li>手術室における硬膜外麻酔注射薬の調製</li><li>フォーミュラリー運用開始</li><li>薬剤師外来の開設（C型肝炎治療薬の服薬指導）</li></ul><b>2015年度</b><ul style="list-style-type: none"><li>新薬評価開始</li><li>周術期薬剤師外来の開設</li></ul></li></ul>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 数回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：</li><li>・ ポンプなど全部署で使用する機器に関して新入職者、新研修医を対象とした研修会を年 1 回行っている。</li><li>・ 人工呼吸器などは必要に応じ病棟単位で 1 年を通し行っている。</li><li>・ 救命センターなど特殊な機器を使用する部署には、研修医などの移動時にCHDF、PCPSなどの操作説明を行っている。</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ☑・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：</li><li>・ 中央管理機器 (人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等) な使用後の終業点検と年 1 回の定期点検を行っている。</li><li>・ 病棟に設置してある除細動器などは定期的なラウンドと年 1 回の定期点検を行っている。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li><li>・ 医療機器の不具合などの情報は、メーカーより事務局に集中して入るようになっています。</li><li>・ 医薬品医療機器総合機構などより情報を収集</li></ul>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価時期：平成23年11月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ・ HP での情報発信。病院案内のページに先進医療や専門外来を掲載。 ・ 講演会開催や、地域医療施設へパンフレット「地域の輪」を配布。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・ 診療科間において、診療依頼票による書面での依頼を行う。 ・ 合同カンファレンスの実施や電子カルテにより情報共有をし連携をとっている。 ・ センター化することにより、複数科でのチーム医療を実施。	

(様式第8)

番 号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学  
理事長 明石 勝也 (印)

聖マリアンナ医科大学病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の20第6号口及び第7号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

### 記

#### 1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 (2) 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

#### 2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
<ul style="list-style-type: none"><li>救急科については、平成27年度中に設置予定。</li><li>歯科については、平成26年度中に近隣の歯科診療所との連携により歯科医療を提供する体制整備を図る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>救急科については、平成27年度中に設置予定。</li><li>歯科については、川崎市立多摩病院の歯科口腔外科と連携し、歯科医療の体制を整備している。</li></ul>

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第8として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

#### 3 今後の具体的措置

--

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。